

地方の小さな都市で、五十年前に小さな幼稚園を創られたおばあさんをお訪ねした。八十歳をこえても、元気に子どもたちの中に交っておられ、子どもの中の楽しいはなしをいろいろと伺った。むかしから蚕を飼っていて、子どもたちは蚕が繭になるのを見ていて、かいこさんは寂しかりうからと、小さな人形や玩具をそのわきにいれてあげるはなしなど、

かいこを友だちのように思う幼児の気持ちを、そのままに受取って楽しんでおられた。その繭のそばに小さな玩具を入れた箱を、捨てがたくて戸棚の中にしてもらわれて、出して見せて頂いた。海辺の漁師町であるのに、幼稚園から子どもが帰るとき、ビニールの袋に砂場の砂をいれて持って帰る子どもが最近増えてきたとのことだった。「何にするの?」とたずねると、家に帰ると砂がないからと子どもたちは答えるのだという。砂だけでなく、水をビニール袋にいれて持って

帰る子どももいるとのこと。「うちではお水をやるとママに叱られるから」と老園長の観察眼はなかなか鋭い。

この幼稚園の周囲に、最近、五、六百人の園児を持つ幼稚園がいくつかできたそうである。いずれもスクールバスで一時間以上もまわって、子どもを乗せてくる。それに対して、老園長は、幼稚園に到着するまでに子どもが疲れてしまうようなスクールバスは絶対に使いませんと断固と言われた。まわりの幼稚園は、時間割で区切って歌をうたったり、絵をかかせたりしているけれど、幼稚園は子どもが楽しく遊ぶところでしょう。自分とはたとえ子どもが五十人に減っても、本当の幼稚園の道を歩みたいと、静かななしの中に決意を語られた。

日本國中、津々浦々、幼稚園は子ども党の人たちによって支えられてきた。これからも、幼稚園から子ども党が跡を絶たぬことを信じている。

(津守 真)

幼児の教育 第七十七巻第九号

九月号 © 定価二二〇円

昭和五十三年八月二十五日 印刷
昭和五十三年九月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。